

養護老人ホーム 母来寮

1 基本方針

利用者の尊厳を大切にし、安全で安心できる良質な福祉サービスの提供に努め、自立した生活を支援する。

また、地域に開かれた福祉施設として、地域の中で連携・交流に努め、地域の皆様に親しまれる施設を目指す。

2 利用者の状況（令和4年3月31日現在）

（1）入退所の状況

定員	前年度末 利用者数	令和3年度中の入退所状況						利 用 延人員	年間平均 稼働率	年 度 末 利用者数
		入所	退所	退所理由別						
				家庭 復帰	施設 移管	契約解除 (入院等)	死亡			
130人	122人	24人	25人	1人	9人	2人	13人	42,220人	88.96%	121人
2年度 130人	125人	21人	24人	2人	4人	6人	12人	42,949人	90.52%	123人

（2）利用者（特定施設入居者生活介護）の介護度別人員

性別	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計	定員
男性	0人	0人	5人	4人	0人	2人	0人	14人	75人
女性	0人	0人	11人	10人	10人	7人	3人	41人	
計	0人	0人	16人	14人	10人	9人	3人	52人	

（平均介護度2.40）

3 事業の実施状況

（1）安全で安心できる良質な福祉サービスの提供

ア 利用者の方の意志や人格を尊重し、集団生活の中でも幅広い選択肢を提供できる環境を整えた。

イ 常に利用者の方の立場に立って支援を行い、個別対応に取り組み、生活の質の向上に努めた。また、新型コロナウイルスなどの感染症対策を講じた。

ウ 自立支援に視点をおいたプランの作成と、多様で複雑な個別ニーズに適切に対応するため、総務・事務、生活相談、介護・支援、医務・看護、栄養・調理の各部署の職員による多職種連携でサービスの提供を行った。

エ 利用者の方それぞれに応じて、自立した日常生活を営むことができるよう、機能訓練の実施などにより機能の維持と向上を図り、介護予防に努めた。

オ 介護を必要とされる利用者の方には、適切な介護サービスを提供し、要介護状態が変更となる場合には、状況に応じて、より相応しい施設へ移ることができるよう、利用者の方や家族の方に対して支援を行った。

（2）地域との連携及び交流の促進

- ア 地域の清掃活動への参加を実施することで地域住民として地域貢献に努めた。
- イ 町の敬老祝賀会等の地域行事に地域の一員として参加できるよう支援した。地域と協同で開催するグランドゴルフ大会に利用者の方も参加できる体制を整えていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催が中止となった。
- ウ 社会福祉士実習や看護専門学校高齢者コミュニケーション実習等の実習を受入れ、福祉教育の一端を担った。

(3) 経営効率化への取組み

- ア 各市町村及び関係機関等と連携を密にして、入所依頼から入所までをスムーズに進行することで欠員補充に努めた。また、家庭復帰や施設移管等による退所も関係機関、家族等の意向を取りまとめ、養護老人ホームとして適切に機能した。
- イ 重度化に伴う施設移管退所や死亡退所が前年に比べて多く、入所者の確保や介護重度化予防等に努めたが、養護老人ホームの入所稼働率は88.7%と目標(92%)を下回り、特定施設についても稼働率は69.6%と目標(80%)を達成できなかった。市町村事業である生活管理短期宿泊事業の利用については長期間の利用が多く、稼働率16.2%と目標(10%)に達することができた。

(4) 人材の育成

- ア 施設と職員本人が話し合い、個人目標を設定し、個人研修計画を作成した。その計画を基に内部研修を行い必要な知識並びにスキルの取得に努めた。また、コンプライアンス研修を開催し、健全で透明な組織を形成した。
- イ ストレスチェックや虐待防止チェックシートの結果を分析し、メンタルヘルスや接遇、人権についての研修を開催し職員の意識啓発に努めた。
- ウ 社会福祉士などの資格試験や研修受講費補助制度等についての情報を職員へ提供するとともに、資格取得を促した。

4 実習、ボランティアの受入状況

(1) 実習の受入実績

実習受入先	受入期間	実人員	延人員
鳥取県立倉吉総合看護専門学校	10月	10人	60人
計		10人	60人

(2) ボランティアの受入実績

クラブ活動指導 (延べ4人)

5 付帯事業

短期宿泊事業 定員 併設4名

年度	実人員	延人員
令和3年度	11人	237人
令和2年度	6人	63人